

桒田 和美 議員
(一問一答方式)



- ①「デコ活」の推進について
- ②防災減災対策について
- ③带状疱疹ワクチン接種について
- ④プレミアム付デジタル商品券事業について

市民への「デコ活」の推進について

問 デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動)について、市はどのように考え、どのような取組を進めているのか。市民とともに取り組んでいることについて伺いたい。

答 市民へのデコ活の推進に対する市の考え方や取組ですが、脱炭素は世界的な課題であり、大洲市としても、エネルギービジョンにおいて再生エネルギーの活用についての実現可能性調査を行うなど取組を推進しており、今後ますます重要になる問題であると捉えています。

昨年10月開催の大洲産業フェスタでは、愛媛県との連携事業として、市民を中心とした来場者へのデカボm y スコアの測定や、脱炭素に関するデカボクイズに挑戦してもらうなど、生活の中で意識してもらえるような啓発を行いました。

今後の市民への啓発の取組としては、デコ活を分かりやすく発信、啓発できるような冊子の作成に予算を充てられないかなどの調査検討を進めるとともに、環境省のデコ活特設サイトなどを参考にしながら、大洲市の公式ホームページや公式LINEなどを活用した啓発も進めていきたいと考えています。

新しい地方経済・生活環境創生交付金の活用について

問 国の令和6年度補正予算で新設された、新しい地方経済・生活環境創生交付金について、どのように活用されるか伺いたい。

答 本市では、この交付金メニューの一つである地域防災緊急整備型について、限度額まで最大限活用し、大規模災害発生時の避難所環境を整備するため、

今定例会に補正予算を計上しています。

補正予算の内容としては、大型トイレカー1台の整備をはじめ、能登半島でも活躍した循環型シャワーや手洗いスタンド、また簡易ベッド、間仕切りテント、スポットクーラーなど、避難所環境の整備充実を目的としています。

なお、今回整備予定のスポットクーラーは、総合体育館や、長浜スポーツセンターなどの体育施設を避難所として開設した場合には、避難者の生活環境の向上につながるものと考えています。

带状疱疹ワクチンの定期接種化と大洲市での助成について

問 带状疱疹を予防するワクチンが定期接種化されている。接種に用いるワクチンは2種類あるが、大洲市ではそれぞれのワクチンの接種に対して、どのような助成を行うのか伺いたい。

答 国において、带状疱疹が予防接種法のB類疾病に位置づけられ、今後の带状疱疹ワクチンの方針が示されたことから、先般、県内市町と県医師会との協議の場において、広域契約の合意を得たところです。

带状疱疹ワクチンには生ワクチンと組換えワクチンの2種類があり、費用や方法、効果、副反応がそれぞれ異なっています。

国が示した標準的な接種費用をもとに、広域契約の締結を予定している費用は、生ワクチンは、接種1回で接種費用8,860円のうち4,360円を公費負担とし、ワクチン相当額の4,500円が自己負担額となります。一方、組換えワクチンは、接種2回で接種費用4万4,120円のうち1万1,120円を公費負担とし、ワクチン相当額の3万3,000円が自己負担額となります。

有効性の持続期間、いわゆる予防効果については、生ワクチンが接種後5年で4割程度の方に効果があるとされる一方で、組換えワクチンは接種後5年で9割程度、接種後10年で7割程度の方に効果があるとされています。

組換えワクチンは自己負担が高額であり、また効果や副反応などの特徴が異なることから、接種を希望される方はこれらを十分理解したうえで、どちらのワクチンを接種されるか判断していただきます。